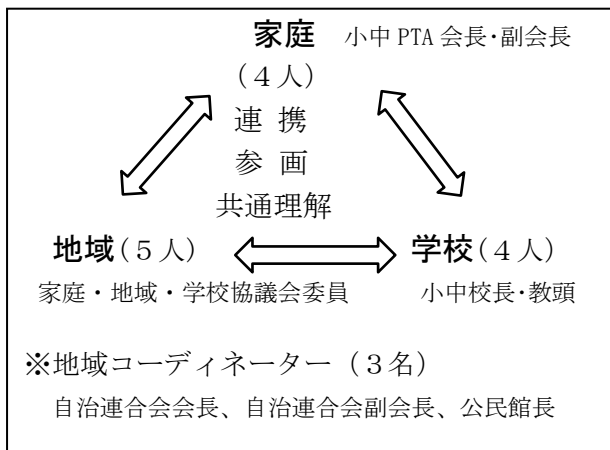


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

※開催回数…年間3回

※開催日程…第1回 6月18日(火)

第2回 11月8日(金)

第3回 2月28日(木)

(第1回・3回は小中合同開催)

※協議内容

- ・スクールプラン、主な年間行事
- ・体験活動の充実について
- ・地域と関連した行事について
- ・学校評価について

(3) 協議会における成果と課題

- ・地域行事運営者の高齢化問題、見守り隊協力者数の減少など、地域・学校が抱える課題について共有することができた。
- ・NIE学習について、協議会で委員から話題提供され、次年度の取組に向けて、検討を行うきっかけの一つとなった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・学校公開等で地域学習の成果を発表し、学び取った地域のよさや、学習で関わった人へ感謝の気持ちを伝えて、地域の人々とのつながりをより深める。
- ・地域の人々から、海に関わる知識・技能、歴史・名跡、福祉活動などについて学び、児童のふるさとへの思いをさらに広げて、自身の未来に目を向けようとする態度を育む。

(2) 活動の実際

①「ふるさと探訪」(3・4年生)

国見地区内の名所・旧跡を探訪し、地域の伝承を知ったり、旧家のご家族と交流したりして、国見地区の歴史などについて実感や理解を深めた。昨年経験し「ふるさと探訪」の学習が2回目となる4年生が、3年生をリードしながら、各所の見所や質問内容などの見通しを立てる事前学習を進めた。公民館長や主事の方々から、熱心に学び取る姿が見られた。



②「海を知る学習」(全学年)

本年度は「鮎川海岸清掃(3～6年生)」「鮎川写生大会(全学年)」「海開き(全学年)」「カヌー体験教室(3～6年生)」を通して、児童がごく身近に感じている海への見方・考え方を広めた。「鮎川海岸清掃」では、縦割り班で漂着ごみの集め方を話し合い、分別にも気をつけながら、地域の砂浜の美化活動に熱心に取り組んだ。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・地域活動の講師として直接指導を受けたり、ゲストティーチャー等外部指導者を紹介していただいたりした。

(4) 特に工夫した事項

- ・3・4年生や5・6年生がそれぞれ複式であること、また1・2年生においても生活科等の学習を一緒に行っていることから、昨年度の経験を今年度に生かすことができるよう心がけた。事前の企画・計画等において、2つの学年の上学年の児童が、昨年見たり聞いたり考えたりしたことを思い出し、その経験を生かして、下学年の児童に伝え、相談しながら活動のめあて、方法、注意点などを決めることができた。体験の積み上げによって、どの児童も主体的に、ふるさとについて調べたり、発表会に向けてまとめたりすることができた。
- ・今年度も、地域の方々などへの感謝と交流の場「感謝の会」と、学習成果等の発表の場「きらきら発表会」を実施し、お世話になった方々と交流を深めることができた。これらによって、児童が人々と関わることへの自信を深め、地域学習に取り組もうとする意欲もさらに高めることができた。

(5) 成果と課題

- ・今年度の学校評価、児童への「私は、国見地区が好きである。」の設問では、3・4年生「前期 81.8%・後期 100%」、5・6年生「前期 58.3%・後期 75.0%」と、地域への児童の愛着度が前期から後期にかけて向上し、地域学習を進めてきた成果が表れていると考えている。一方、保護者における「わが子は、国見地区が好きで、愛着をもっている。」では「前期 64.8%・後期 63.8%」とほぼ同じ数値にとどまり、児童からの発信がまだ十分でない様子もうかがえる。今後も、地域とともに体験活動を進めていくことのねらいを十分踏まえながら、地域の良さを学び取る活動、学習で関わった人へ感謝の思いを伝える活動を継続し、改善を図りたい。
- ・児童の「自身の未来に目を向けようとする態度」については、3・4年生「なりたい人や、なりたい職業がある。将来の目標がある。」で「前期 90.9%・後期 90.9%」、5・6年生「将来の夢やなりたい人、なりたい職業などの目標がある。」で「前期 91.6%・後期 83.3%」であった。後期にかけて数値が低下した5・6年生でも、A「当てはまる」の児童は「前期 58.3%・後期 75.0%」と向上した。今後は、地域とともに体験活動を進めていくうえで、①様々な年代の方々と交流を図る、②園や中学校との連携をより確かにする、③キャリア教育の他のプログラムと連携させる、といった視点ももちながら取組を継続していきたい。